



TITLE:

<Book review>Istilah Ekonomi,
Inggeris-Melayu-Inggeris, (Siri Istilah
DBP Bil. 3.) Kuala Lumpur : Dewan
Bahasa dan Pustaka, 1965,151p

AUTHOR(S):

前田, 成文

CITATION:

前田, 成文. <Book review>Istilah Ekonomi, Inggeris-Melayu-Inggeris, (Siri Istilah DBP Bil. 3.) Kuala Lumpur : Dewan Bahasa dan Pustaka, 1965,151p. 東南アジア研究 1967, 5(1): 211-211

ISSUE DATE:

1967-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/55354>

RIGHT:

図 書 紹 介

Istilah Ekonomi, Inggeris-Melayu-Inggeris. (Siri Istilah DBP Bil. 3.) Kuala Lumpur: Dewan Bahasa dan Pustaka, 1965. 151 p.

マレーシア政府の教育省の中にある、言語文学局の経済用語専門委員会が編纂した経済用語集である。マレー語—英語、英語—マレー語の二部からなり、どちらの語からでも、対応する用語を見つけ出せるようになっている。この言語文学局では、すでに *Istilah Jawatan dan Jabatan* (役職・官庁用語)、および *Istilah Pentadbiran* (行政用語) とを出しており、経済用語集は第3番目にあたる。言語文学局は、マレーシアのマレー語化政策の推進母体で、マレー語がすべての分野で支障なく使用できるよう必要な新語を作ったり、種々の出版物を出している。

用語集の専門委員会は、マラヤ大学の経済学部長 Ungku Abdul Aziz 教授(早稲田大学経済学博士)を中心に、マラヤ大学のスタッフ、実務家など18人の構成員(1人の中国人を除いては、すべてマレー人)によって、丸4年の検討を経て完成されたものである。その苦心の一部は、編纂方針を述べた序文にもうかがえるが、並大抵ではなかったであろうことが容易に想像される。あるいは、外国語の音をそのまま写し、あるいは2語を1語に縮少し、あるいは従来の意味を拡張してマレー語を使い、あるいは接頭辞、接尾辞を基幹語につけて抽象化し、あるいは巷間に使われる口語を取り入れたりして、造語を計っている。特に、インドネシア語との連関を求めるといったことはない。

例えば、その序文にある新造語を使った一文を紹介すると、

Sa harus-nya dengan pengalaman yang telah di-dapati dan juga tegoran² dari *keritik*² [critics] yang mungkin di-terima, *daya pengeluaran* [productivity] JKIE (Jawatan-kuasa Istilah Ekonomi) harus boleh menunjohkan *pulangan bertambah-lebeh* [increasing returns];

JKIE harus boleh menggubah bukan sahaja *kuantiti* [quantity] istilah yang *maksima* [maximum], tetapi juga menjaga supaya *kualiti* [quality] istilah² itu tidak jatuh. ([] 内およびイタリックは引用者)

語数は、1221語のマレー語用語が基本となっている。読者の便をはかって、修飾語からも引けるようになっている。例えば、*tuan tanah tidor* (不在地主) は、*tanah tidor*, *tuan* か *tidor*, *tuan tanah* かでも引ける。(前田 成文)

Gerald C. Hickey. *Village in Vietnam.* New Haven: Yale University Press, 1964. xxiii+325 p.

昨今、ベトナムに関する文献が雨後の筍のごとくに現われているが、それらはほぼ(1)国際政治・国際関係の観点からベトナムを扱ったもの、(2)軍事的分析を中心にしてベトナム戦争を扱ったもの、(3)ジャーナリストによる報告、著述、そしてここに紹介するような(4)ベトナム社会自体を直接の分析対象としたもの、などに分けうるかと思う。この第4番目のカテゴリーに属する文献は、ある意味では最も重要なものでありながら、きわめて数少ないのが現状である。

この書は、ベトナムの一村落(Khan Hau, サイゴン南西 55km, 1958年当時人口 3,241人)に関する民俗誌的な記録であり、筆者の理解する限りでは、同じ著者が、*The Study of a Vietnamese Rural Community: Sociology*, Saigon: Michigan State Univ., Vietnam Advisory Group, 1960. として出版したものを中心に、さらに何回かの追加調査を加えて完成したものである。

この書物の骨子を形成している諸資料は、1958年3月から1959年12月まで、文化人類学者の著者が、経済学者の J. Hendry, 政治学者の L. Woodruff とともに、ミシガン州立大学ベトナム顧問団支援のもとに、Khan Hau で行なった現地調査によって集められたものであり、巻末の文献目録にも見られる通り、他の2人の共同調査者も各々の専門分野でこの村落の調査報告を書いている。(J. Hendry, *The Study of a Vietnamese Rural Community* :